



こども連絡所

こども連絡所とは、県の取り組みで、子供たちが登下校時などで知らない人から声をかけられたりしたときに助けを求めることのできる民家・商店・事業所のことです。津房地区公民館もこども連絡所です。

4 月下旬に小学校から頂いたのぼりを子供たちが分かりやすいように駐車場の入口に設置しました。

津房っこのみんな!

こうみんかんはつぶさのみんなの
こうみんかんです。

こまったときはいつでもおいで!

いつも
ありがとうございます



公民館も見頃でした
(5 月 4 日撮影)

頂いた ジャーマンアイリス
別名：虹の花 (レインボーフラワー)

花言葉：使者、恋のメッセージ

バラがきれいな時期
になりました
(5 月 4 日撮影)



バラといえば…父の日!

今年は 6 月 20 日です

父の日はつい忘れてしまう方も世間ではいらっしゃるのか。そんな父の日の由来について調べてみました。

アヤメ



紫色の花言葉：よい便り

白色の花言葉：純粋、あなたを大事にします

父の日はアメリカで生まれました。まず 1908 年アメリカで母の日が出来ました。それを知ったある女性が翌年、「母の日と同様に父に感謝する日を！」と牧師協会に嘆願したのが始まり。その女性の父は軍人で、女性の幼い頃に南北戦争が勃発。もちろん軍人の父は戦に召集され、その間母が 6 人の子供を女手一つで育てたそう。しかし母は体を壊し、父が復員後間もなく亡くなってしまいます。そこから父は生涯独身で働き通し 6 人の子供たちを育てたそう。今の豊かなアメリカではなく、南北戦争後の時代で大変な苦勞だったでしょう、6 人の子供たちが成人した後、父は亡くなったそう。

女性の父を想う声から 7 年後の 1916 年ウィルソン大統領の演説で父の日は認知され、1972 年にアメリカで国の記念日になりました。

ちなみに母の日はカーネーションを贈りますが、父の日はバラ。それは父の日が出来たきっかけを作った女性が亡き父の墓前に白のバラをそえたからだそうです。

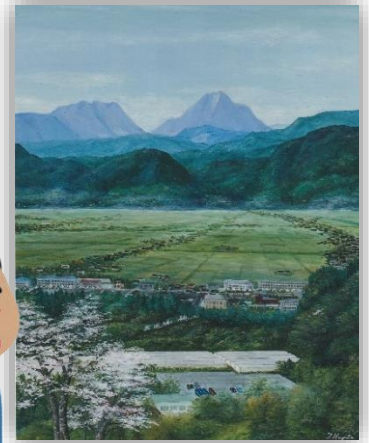
4 月下旬に安心院複合支所で行われた中津地区公民館連合の総会。総会時配付された資料の表紙が油絵教室の永田先生の作品『安心院盆地の春』でした。

制作秘話をお聞きしました



『安心院盆地の春』は家族旅行村の展望台からの風景。でも実際に展望台に行っても同じ風景は見られないそうです。作品の風景は吉四六さんの梯子のぼりのように少し上空に登って見たような景色にしたそうです。また目を引く桜も実は実際の場所にはありません。モデルの桜は展望台の裏山にあるもの。「吉四六の梯子のぼり」を交えて話される作者の永田先生のお話はとても興味深いです。

『安心院盆地の春』は安心院複合支所に展示されております。ない景色を見ることができなのが絵画。作品でしか出会えない景色に癒されてみてはいかがでしょうか。



津房句会

大隈草生 選

三月例会

三月二十七日(土)

兼題(春光・花・囀)

一陣の風ピンク色花吹雪・洋子

(評)一斉に咲いて散る桜の潔さは日本人の美意識に合致している。花の生命は短く一陣の風に散る桜吹雪はあたり一帯をさくら色に埋め盡す。見事な花吹雪に感嘆の声をあげて仰いでいる。

「空をゆく一とかたまりの花吹雪・素十」がある。

春光や土竜の土の新しき・寂蓮

デイのバス臨時停車す花の下・聖枝

春光や造り酒屋の鰻絵かな・茂

囀りを聞いて笑顔のティータイム・一圭

永らへてしみじみ仰ぐ桜かな・草生



相原さんの作品



紫陽花

今年は梅雨入りが早い

大久保さんのやさしいお話

見えるもの、見えないもの

私たちの社会には、顔や身体にアザやキズ、ヤケドの跡がある方、サリドマイド被害により腕が短く生まれた方がいます。また、生まれつき顔の骨が不完全なトリーチャー・コリンズ症候群の方、生まれつき色素が少ないかまたは無いため肌は白く目の色は薄く、髪は金色や銀色のアルビノの方も暮らしています。

彼ら彼女らは、見えるもの(見た目)が原因で、避けられて孤立する、結婚や就職で差別される、といった経験をしています。

そして、見えないものでは、たとえばハリウwoodsの俳優トム・クルーズがそうであると公表したことで広く知られるようになった「ディスレクシア」。文字の読み書きに困難を生じる学習障がいで、文字や線が波打って見えたり、反転したりゆがんだりして見える、といった症状があります。でも、読み書き以外の能力は他の人たちと何ら変わらないため、「怠けている」「ふざけている」と誤解され、教師に叱られた、イジメの対象になった、という経験をした方も多いようです。

見えるもの、あるいは見えないものが原因で自分を否定されるような苦しい経験をしている人たちが数多くいます。人は自分が関心のあることや気になっている部分しか見えないものです。「見えるものだけで判断しない」、「見えないものもある」ことを心に刻み、ありのままの自分で安心していられる社会にしたいですね。

大分県人権啓発コラム「心ひらいて」より

安心院中央公民館 大久保 和則

小野さんご協力のもと、津房の歴史や史跡について毎月お届けいたします。

津房の歴史

I.水の郷 津房

津房川の源流は由布山。崩落の巨大砂防ダム下から始まる。手ですくえぬ程の水量の津房川(国境橋から)と呼ばれる川は、須崎・丸田水力発電所、大口田・上ノ原方面まで水を供給する程の水量に成長。

大古、津房は巨大湖であった。その名残が、沼郷・津布佐と呼ばれた。東椎屋辺りまでは湖で、津(=湖や港の舟だまり)で水が引いた後、布佐(=麻などの植物)が良く実った。【類例 中津・橋津 津々浦々】

今、疫病の流行で大変な時ではあるが弥生時代から営営と続いた稲作、山里から田んぼに水が張られ、6月の津房谷は緑の稲一色になる。これ程、水に恵まれた土地はない。

安心院縄文会 小野正雄氏



津房川の源流。由布山崩落の大砂防ダム下。

6月の予定

6月4日(金) 13:30~	特定健診(要予約)
6月10日(木) 9:00~	津房地区公民館料理教室

公民館の開館日は火・水・金です。